

氏 名 和氣 玲  
学位記番号 医博甲第273号  
学位授与年月日 平成18年9月21日  
審査委員 主査 教授 岩本喜久生  
副査 教授 安井 幸彦  
副査 教授 廣田 秋彦

### 論文審査の結果の要旨

特発性非抱合型高ビリルビン血症 (Gilbert 症候群, GS) を合併する統合失調症患者 (GS(+)) は、GS を合併しない統合失調症患者 (GS(-)) および健常者 (HC) よりも神経発達障害や大脳皮質の萎縮の程度が著しいことが報告されている。さらに、GS(+)) では脳代謝異常が発現していることも考えられているが、これについての報告は乏しい。本研究では、proton magnetic resonance spectroscopy (<sup>1</sup>H-MRS) を用いて、前部帯状回、島皮質、および視床の微小領域 (8cm<sup>3</sup>) における神経細胞、細胞膜およびグリア細胞に対する各種マーカー、すなわち N-acetylaspartate (NAA)、choline (Cho) および myoinositol (mI) の creatine-phosphocreatinine (Cr) との濃度比を測定し、GS(+)) における脳代謝について GS(-)) および HC と比較検討した。対象は DSM-IV 評価基準に従って診断された GS(+)) 15 例、GS(-)) 15 例、および HC 20 例の 3 群とした。その結果、前部帯状回と島皮質において、GS(+)) では、GS(-))、HC と比べて NAA/Cr、Cho/Cr、mI/Cr のいずれもが有意に低値を示した。また、視床において、GS(+)) では、GS(-)) と比べて NAA/Cr、mI/Cr が低値を示し、HC と比べていずれの比も低値であった。

以上の結果から、GS(+)) 群は、GS(-)) 群あるいは HC 群と比較して、前部帯状回、島皮質および視床における神経細胞と細胞膜およびグリア細胞の障害が高度に引き起こされている可能性が示唆された。このことは、GS(+)) 群に見られる認知と情動および感覚の統合の障害が著しいという臨床所見を反映していると考えられた。本研究成果は、GS(+)) における認知障害や情動障害に関する臨床医学研究の進展のみならず治療アルゴリズムや再発予防プログラムの作成等に寄与すると評価された。